

らいいプラス

…と話す(大阪市)

「エアコン掛けは意外と電気食つんやな」「昨日ホットプレート使ったから数字が上がってたわ」。大阪市に住む辻洋さん(71)は、妻と電気に関する会話が「見える化機器」を昨年7月に借りたためだ。

電気の使用量を時間帯ごとに確認でき、目標以上に使い過ぎると赤く光ってブザーが鳴る。「今は3・510(kWh)で、いつもより少し多め。結果が見えるので励みになる」。今では製品の電力消費の傾向がわかり、表計算ソフトに数字を入力するのが楽しい。

自然体で省エネ

2人暮らしの辻さんの電気代は年10万〜11万円台だったが、昨年は22%減の8万3340円になった。冬にコトヨウリンを育てるために使うオイルヒーターの電力消費が大きいとわかったが、大切な趣味なので続

節電2年目 一歩先へ進む



使用量や「知る」手始めに 料金制度

ける。一方で13階に住む利点を生かし、夏はエアコンを極力使わず窓を開ける。「無理は続かない」と、自然体で省エネに取り組み。この機器を無料で貸し出したのは大阪市。市民の環境意識を高めるために100台を用意した。30〜40代の申し込みが多く、利用者の69%が「節電に効果があった」と回答した。

原発依存度が高い関西地区にとって節電は切実な問題だが、市民の受け止め方は様々だ。象印マホービンの調査では、昨夏に毎日発表された「でんき予報」を気にしていた主婦の割合は計画停電を経験した首都圏

で76%だったが、関西は64%。大阪市が貸与している機器も在庫がある。同市環境計画課は「まず電力消費の状況を把握して、節電に生かしてほしい」と訴える。「4人家族で電気代が月2千円と話す」と驚かれま

古石さんが住む地域では同時に使える電力量の上限によって、10〜60A(アンペア)の7段階の基本料金が選べるが「契約内容を知らない家庭も多い」のが実情。そこで電化製品の使用量を専用機器で調べ、各家庭の使用状況に応じた契約への切り替えを促す。

「昨年11月の節電ブレーカーの導入で、エレベーターなどの動力に使う電気の基本料金を月8千円削減できた」。千葉県市川市の佐藤三夫さん(66)は58世帯が住むマンションの管理組合の監事だ。節電ブレーカーは電子制御で効率的に節電する機器。年100万円かかっていた共用部の電気代を減らそうと採用した。節電プランを提案したマンションECOサポートセンター(東京・千代田)の中嶋康晴社長は「建物の特性に合ったプランを考える必要がある」と指摘。佐藤さんも「東日本大震災までは料金の詳しい仕組みは知らなかった」と話すが、皆で理解を深めたいという。東京電力は企業向け電力料金に続いて家庭向けの値上げを予定し、他の地域にも今後波及する可能性がある。「エアコン28度」など一般的な節電案の「一歩先を行く取り組みは、ますます関心を集めそうだ」。

建物特性を考慮

持続性が重要

エネルギー問題に詳しい岩船由美子・東京大学生産技術研究所准教授の話

昨年が時間の余裕がなく対応も限られた「緊急節電」だったとすれば、今年からは「持続可能な節電」が必要だ。原発停止で燃料費が膨らみ、企業と家庭共に電気料金が上がる。ピーク電

力の抑制だけでなく、電力消費の総量を減らす持続的な省エネが求められる。昨夏の節電は突発的な停電という最悪の事態を回避できた点では成功だったが、工場などの生産部門に大きな負担がかかった。生産部門のコスト増は景気や雇用を通して個人にはね返るため、家庭の節電が今後果たす役割は大きい。

家庭の電気、知っていますか？



在宅世帯では全体で1200ワットを消費。エアコンの節電余地が大きい

検針票を見よう

電気ご使用量のお知らせ

ご使用期間	○月×日～○月×日
ご使用量	229kWh
料金	0000円
ご契約	40A

使用量を示すキロワット時。例えば100ワットの電球を10時間使うと、100W×10h=1000Wh=1kWhとなる

(注)ダウンアンペア作戦コンソーシアムふくいの資料から

マンション共用部の料金は

戸数	契約タイプ	特徴
<100戸以上(目安)>	高圧受電契約	大口事業所と同様、料金単価は安めに設定
<15~100戸(目安)>	低圧受電契約	動力(エレベーターや駐車場)と電灯(廊下や玄関)の2つの料金から成る。節電ブレーカー導入可能

(注)マンションECOサポートセンターの資料から

生活